

目的

フードツーリズムの調査研究を通じ、国内外においてその普及と促進を行うものです。

事業

- ① 会員による研究発表会、視察ツアー
- ② 一般対象のセミナーおよびシンポジウム等の企画・開催
- ③ 学会誌の発行
- ④ フードツーリズムに関する調査、共同研究、委託・連携事業、広報活動等
- ⑤ ホームページによるフードツーリズムに関する情報発信

運営)総会、研究大会を実施

沿革

2008.09.01フードツーリズム研究会の設立
2015.04.01日本フードツーリズム研究会への改称
2018.01.10日本フードツーリズム学会の設立

サイト等

ホームページ:<http://www.foodtourism.jp/>
Facebook:

会員特典

- ①「年報」など学会誌:年1回発行配布
- ②「定例研究会の報告」:メール等で配布
- ③「セミナー」一般対象のセミナーおよびシンポジウム等:参加無料
- ④「視察」ツアー:優先参加

会員について

個人、学生、賛助会員(団体を含む)の3種類で、団体で本学会の例会に参加するもの(団体は1団体で5名まで参加可能)
どれも会員1名の推薦によります。

年会費

- | | |
|-----------|----------------|
| ①正会員 | 5,000円 |
| ②学生会員 | 2,000円(社会人を除く) |
| ③賛助会員(個人) | 10,000円(一口) |
| ④賛助会員(団体) | 30,000円(一口) |

会費振込先銀行口座

三井住友銀行 新石切支店(159)
普通 1797844
日本フードツーリズム学会 事務局長 小川雅司
振込み手数料は各自で負担お願いします。

役員(2020.6現在)

会長
中村忠司:東京経済大学コミュニケーション学部教授

副会長
村上喜郁:追手門学院大学経営学部教授

事務局長
小川雅司:大阪産業大学経済学部教授

以上のもと各担当業務代表者で構成される理事会で運営

事務局

〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1番1号
大阪産業大学経済学部小川雅司研究室
メールアドレス:jimu.jfts@gmail.com

日本フードツーリズム学会

Japan Food Tourism Society

ご案内



■フードツーリズム宣言(2013.09.14)

1. フードツーリズムは、地域ならではの料理を味わうことを求める観光形態であり、土地の味覚を通じて、歴史や文化、景色なども体験し、地域の人々のライフスタイルにふれる旅行スタイルです。
2. フードツーリズムは、観光と味覚の成熟から生まれた新しい観光、ニューツーリズムです。
3. フードツーリズムは、地域にとってその土地の食材と調理による美味しい料理を旅行者に提供することにより、地域の良さを再認識することにつながります。また、このことを通じて、地域経済の活性化にも貢献できます。
4. フードツーリズムは、都市と地方の暮らしを相互に豊かにします。私たちはフードツーリズムをさらに広め、地域の振興につなげていきたいと思ひます。そのためフードツーリズムの情報収集と情報発信に努めます。
5. フードツーリズムを全国に広め、日本の食文化を高め、魅力ある観光立国日本を目指しましょう。

■関西フードツーリズムMAPの発表



■FoodTrailのすすめの発表



「フードトレイルで
地域に活力を」
2017.09.01



■フードツーリズム研究フォーラム

「関西の食文化とフードツーリズム」2013.09.14
特別講演「料理が地方を元気にする」
奥田 政行 (アル・ケッチャーノ オーナーシェフ)
パネルディスカッション「関西からフードツーリズムを広めよう」

「大阪の市場と観光」2014.11.21
基調講演「大阪の市場と観光」小田切聡
フォーラム『木津市場の観光まちづくり』

「ガストロノミーとフードツーリズム」2015.02.14
基調講演「ガストロノミーの誕生と発展—なぜフランスにガストロノミーは生まれたのか」
八木尚子 (辻静雄料理教育研究所所長)
パネルディスカッション

「東北を旅して日本を考える」2015.12.4
東北フードツーリズムフォーラムなど
基調講演「森は海の恋人 豊かな三陸の海」畠山重篤

「東アジア美食・文化・観光国際フォーラム」2018.08.17
基調講演「WASHOKUとインバウンド戦略」片岡究 (オイシー
ジャパン代表)
研究発表、シンポジウム「伝統料理とインバウンド振興」
韓国と中国から約30名の研究者と実業家をお招きし、日本からの参加者も合わせて106名のフォーラムになりました。日中韓の食文化と観光を考える大変良い機会になり、ソウル大会に引き続き、交流と親睦の機会となりました。



■フードツーリズム研究セミナー

地域における「食文化」は近年、観光振興の重要な要素として注目されています。美味を求める旅は古くからありましたが、観光地域の競争が激化した今日、食文化を抜きにして都市や地方の観光は語れないといってもいいでしょう。又、国際観光においては日本文化への関心が高まり、とりわけ日本食は主要な観光資源として期待されています。
このような状況の中、食と観光の関係を探り、食文化を活用した観光戦略を学ぶ目的で、フードツーリズム研究セミナーは、これまで多彩な分野の方々にご参加いただき、広く意見交換のできる場をめざして開催してきました。(2018.12.13までの実績31回開催)

(最近のテーマなど)
No.31 ゲストハウスのインバウンド客が求める日本の食と観光
No.30 奈良で広がるフードツーリズム
No.29インバウンドに見る中国人の食文化
No.28大阪のM I C E 事業と食の魅力
No.27生産者と消費者をつなぐフードツーリズム



■年報

日本フードツーリズム研究会 2015年度 年報
フードツーリズム研究 第1号



■ 特別の巻頭に記述... 日本フードツーリズム研究会の発展	(1)
■ 2015年度事業の概観	(2)
■ 研究の動向	(3)
■ フードツーリズムの発展と課題	(5)
■ 研究の動向	(11)
■ 研究の動向	(12)
■ 研究の動向	(13)
■ 研究の動向	(14)
■ 研究の動向	(15)
■ 研究の動向	(16)
■ 研究の動向	(17)
■ 研究の動向	(18)
■ 研究の動向	(19)
■ 研究の動向	(20)
■ 研究の動向	(21)
■ 研究の動向	(22)
■ 研究の動向	(23)
■ 研究の動向	(24)
■ 研究の動向	(25)
■ 研究の動向	(26)
■ 研究の動向	(27)
■ 研究の動向	(28)
■ 研究の動向	(29)
■ 研究の動向	(30)
■ 研究の動向	(31)
■ 研究の動向	(32)
■ 研究の動向	(33)
■ 研究の動向	(34)
■ 研究の動向	(35)
■ 研究の動向	(36)
■ 研究の動向	(37)
■ 研究の動向	(38)
■ 研究の動向	(39)
■ 研究の動向	(40)
■ 研究の動向	(41)
■ 研究の動向	(42)
■ 研究の動向	(43)
■ 研究の動向	(44)
■ 研究の動向	(45)
■ 研究の動向	(46)
■ 研究の動向	(47)
■ 研究の動向	(48)
■ 研究の動向	(49)
■ 研究の動向	(50)
■ 研究の動向	(51)
■ 研究の動向	(52)
■ 研究の動向	(53)
■ 研究の動向	(54)
■ 研究の動向	(55)
■ 研究の動向	(56)
■ 研究の動向	(57)
■ 研究の動向	(58)
■ 研究の動向	(59)
■ 研究の動向	(60)
■ 研究の動向	(61)
■ 研究の動向	(62)
■ 研究の動向	(63)
■ 研究の動向	(64)
■ 研究の動向	(65)
■ 研究の動向	(66)
■ 研究の動向	(67)
■ 研究の動向	(68)
■ 研究の動向	(69)
■ 研究の動向	(70)
■ 研究の動向	(71)
■ 研究の動向	(72)
■ 研究の動向	(73)
■ 研究の動向	(74)
■ 研究の動向	(75)
■ 研究の動向	(76)
■ 研究の動向	(77)
■ 研究の動向	(78)
■ 研究の動向	(79)
■ 研究の動向	(80)
■ 研究の動向	(81)
■ 研究の動向	(82)
■ 研究の動向	(83)
■ 研究の動向	(84)
■ 研究の動向	(85)
■ 研究の動向	(86)
■ 研究の動向	(87)
■ 研究の動向	(88)
■ 研究の動向	(89)
■ 研究の動向	(90)
■ 研究の動向	(91)
■ 研究の動向	(92)
■ 研究の動向	(93)
■ 研究の動向	(94)
■ 研究の動向	(95)
■ 研究の動向	(96)
■ 研究の動向	(97)
■ 研究の動向	(98)
■ 研究の動向	(99)
■ 研究の動向	(100)

日本フードツーリズム研究会 2016年度 年報
フードツーリズム研究 第2号



■ 特別の巻頭に記述... 日本フードツーリズム研究会の発展	(1)
■ 2016年度事業の概観	(2)
■ 研究の動向	(3)
■ フードツーリズムの発展と課題	(5)
■ 研究の動向	(11)
■ 研究の動向	(12)
■ 研究の動向	(13)
■ 研究の動向	(14)
■ 研究の動向	(15)
■ 研究の動向	(16)
■ 研究の動向	(17)
■ 研究の動向	(18)
■ 研究の動向	(19)
■ 研究の動向	(20)
■ 研究の動向	(21)
■ 研究の動向	(22)
■ 研究の動向	(23)
■ 研究の動向	(24)
■ 研究の動向	(25)
■ 研究の動向	(26)
■ 研究の動向	(27)
■ 研究の動向	(28)
■ 研究の動向	(29)
■ 研究の動向	(30)
■ 研究の動向	(31)
■ 研究の動向	(32)
■ 研究の動向	(33)
■ 研究の動向	(34)
■ 研究の動向	(35)
■ 研究の動向	(36)
■ 研究の動向	(37)
■ 研究の動向	(38)
■ 研究の動向	(39)
■ 研究の動向	(40)
■ 研究の動向	(41)
■ 研究の動向	(42)
■ 研究の動向	(43)
■ 研究の動向	(44)
■ 研究の動向	(45)
■ 研究の動向	(46)
■ 研究の動向	(47)
■ 研究の動向	(48)
■ 研究の動向	(49)
■ 研究の動向	(50)
■ 研究の動向	(51)
■ 研究の動向	(52)
■ 研究の動向	(53)
■ 研究の動向	(54)
■ 研究の動向	(55)
■ 研究の動向	(56)
■ 研究の動向	(57)
■ 研究の動向	(58)
■ 研究の動向	(59)
■ 研究の動向	(60)
■ 研究の動向	(61)
■ 研究の動向	(62)
■ 研究の動向	(63)
■ 研究の動向	(64)
■ 研究の動向	(65)
■ 研究の動向	(66)
■ 研究の動向	(67)
■ 研究の動向	(68)
■ 研究の動向	(69)
■ 研究の動向	(70)
■ 研究の動向	(71)
■ 研究の動向	(72)
■ 研究の動向	(73)
■ 研究の動向	(74)
■ 研究の動向	(75)
■ 研究の動向	(76)
■ 研究の動向	(77)
■ 研究の動向	(78)
■ 研究の動向	(79)
■ 研究の動向	(80)
■ 研究の動向	(81)
■ 研究の動向	(82)
■ 研究の動向	(83)
■ 研究の動向	(84)
■ 研究の動向	(85)
■ 研究の動向	(86)
■ 研究の動向	(87)
■ 研究の動向	(88)
■ 研究の動向	(89)
■ 研究の動向	(90)
■ 研究の動向	(91)
■ 研究の動向	(92)
■ 研究の動向	(93)
■ 研究の動向	(94)
■ 研究の動向	(95)
■ 研究の動向	(96)
■ 研究の動向	(97)
■ 研究の動向	(98)
■ 研究の動向	(99)
■ 研究の動向	(100)